

SHINOBI-TRAIN



忍者が潜む
つりかわ



JR草津線と信楽高原鉄道には、忍者ラッピング列車が運行しています。JRは黒の車両に、信楽高原鉄道は緑と紫の車両に、忍者のシルエットに流線模様が施された躍動感溢れるデザインになっています。列車内にも忍者テイストのデザインがあしられ、乗客が楽しめる車両になっています。



社紋部分

国分橋梁

JR草津線は、京都～名古屋を結ぶ幹線の一部として、明治23年に関西鉄道(株)が敷設しました。橋梁のアーチ上部に社紋が残る貴生川～三雲間の国分橋梁は全国的にも珍しい橋梁です。



坊谷隧道(トンネル)

長さ163m、西側の入り口は、要石付きの馬蹄形断面アーチの両脇に壁柱を立ち上げ、上部の笠石と帯石の間は、れんがを長い面の段と短い面の段を交互に積み上げる「イギリス積み」という重厚な造りとなっています。



ランプ小屋

柘植駅の西側には、開業当時のランプ小屋が残っています。ランプ小屋とは、車両や駅舎に使われた照明用ランプや燃料などを収納していた倉庫のことです。危険物を保管することから、頑丈なれんが造りになっています。



柘植駅ホーム

柘植駅は、明治23年2月19日、三重県下初の鉄道駅として開業しました。1番線のプラットホームは、「フランス積み」といわれ、一段にれんがの長い面と短い面を交互に積み重ねる全国的にも珍しい造りです。



忍者列車

伊賀鉄道には、「銀河鉄道999」などの作者で知られる松本零士さんがデザインした「忍者列車」が走っています。

©松本零士

甲賀市、三重県伊賀市・亀山市は、「い・こ・か連携プロジェクト」により3市に共通する課題の解決に向け、各分野で広域的に連携しています。その1つとして「広報記事」となりまち「い・こ・か」は、平成23年2月1日から連載を始め、各市のさまざまな魅力を発信しています。今回は、拡大版として3市を結ぶ鉄道の歴史遺産を中心に3市の魅力を紹介します。

情報交流広場 となりまち



拡大版

鉄道でつながる いこか



リニア中央新幹線

亀山市では、「リニア中央新幹線・JR複線電化推進亀山市民会議」を中心に停車駅誘致に向けた積極的な運動を展開しています。



板屋川橋梁

長さ35.4m、2連の桁橋で、加太側に約13m、柘植側に約22mの鉤桁を深い谷に掛けています。橋脚は石材を膨らみのある「こぶ出し」に仕上げ、下部を五角形断面として、増水時の抵抗を減らす工夫がされています。



- 【鉄道について】
甲賀市公共交通推進課
TEL 69-2215
FAX 63-4601
伊賀市交通政策課
TEL 0595-22-9663
FAX 0595-22-9852
亀山市商工業振興室
TEL 0595-84-5049
FAX 0595-82-9669
- 【いこかについて】
甲賀市広報課
TEL 69-2101
伊賀市広聴情報課
TEL 0595-22-9636
亀山市広報秘書室
TEL 0595-84-5021